

事務事業名	農業用施設災害復旧事業		所属部	農林振興部	所属課	農林土木課
総合計画体系	政策名	〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉		所属G	農林災害復興G	課長名 宮川 勝
	施策名	(34)農業の振興		担当者名	高木 洋輔	電話番号:0854-40-1081 (内線):2404
	目的対象	市内の農家	意図	安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。		
	基本事業	(097)農業基盤の整備・保全		予算科目	0:1550:1	大事業名 農業用施設災害復旧事業 中事業名 現年農業用施設災害復旧事業
目的対象	担い手農家をはじめとする農家	意図	働きやすい環境で、農業の生産性が維持・向上する。			

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
被災箇所	被災箇所の復旧を図ることにより、農林水産業の維持を図り、併せてその経営の安定に寄与する。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	豪雨災害により、土砂崩壊、路肩決壊、水路の破損などの被災を受けた農業用施設(農道・水路など)を原形復旧する事業である。災害として認められる基本事項として、時間雨量20mm以上、24時間連続雨量80mm以上のどちらかをクリアすること、また災害規模としては、被害額が40万円以上であることが必要となる。 暫定補助率:65% R3年度 激甚災害(394箇所):補助率99.5%
④ 主な活動 R3年度実績(R3年度に行った主な活動) R2災 復旧工事(繰越分)3箇所 R3災 被災箇所確認、簡素化査定(箇所認定)、朝原農道測量設計委託ほか	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) R3災は非常に甚大な被害であったことに鑑み、特例措置として受益者負担を求めないこととしている。(通常:2%→R3災:0%)

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(計画)
ア 竣工箇所数(現年)	箇所	2	8	0	未定
イ 竣工箇所数(繰越)	箇所	11	1	3	236
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R3年度決算)	② コストの推移	単位	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(計画)	
【繰越(R2災)】3箇所 工事費:3,489千円、事務費:158千円 計:3,647千円 【現年(R3災)】 委託費:9,591千円、工事費:13,529千円(応急本工事)、 事務費:24,571千円 計:47,691 合計:51,338千円 ※地方債:災害復旧債	財源内訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円	14,458	13,971	3,514	1,501,521
		地方債	千円	1,300	2,800	23,800	25,800
		その他	千円	408	257	61	0
		一般財源	千円	21,433	3,670	23,963	7,190
事業費計		千円	37,599	20,698	51,338	1,534,511	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	被災農業用施設の復旧により、農業経営の維持安定化が図られた。 R3災分については、R4年度以降引き続き早期復旧に努める。
② 事業実施するうえでの課題	R3災は非常に箇所数が多く、農災以外にも治山・林道災、公共災など多様な災害が発生した。復旧には複数年かかる見込みであり、他の災害と調整を取りながら計画的な発注が必要となる。
③ 課題解決に向けた改革改善等	国、県、管理者との情報共有を行い、円滑に事業進捗するよう努める。